

夜間保育

平成29年

1月23日 発行
2016-③

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫
編集責任 大阪市東淀川区豊新3-25-5 豊新聖愛園
全国夜間保育園広報担当 草場加奈子
電話 06-6325-2405 Eメール info@zenyahoren.jp

あけましておめで
とうございます。全
国夜間保育園連盟会
員の皆様には、健や
かに新年を迎えられ
たこと、心からお慶
び申し上げます。

昨年度東京新宿区
に於いて開催され
ました、第27回全国
夜間経験交流研修会
は、北海道から沖
縄まで全国の仲間
210余名が一同に
会し、保育制度、保育
内容、様々な経験を文
字通り交流する会と
なりました。これもひ
とえに東京の先生方
の細やかなご配慮の
賜物と感謝の念にた
えません。ありがとうございます。
ございました。

また、「保育士指
針改定における要望
書」や、機関誌への
情報提供を頂きまし
たこと、熊本・大分
地震の際での義援金
の募金など、会員皆
様からの力添えに感
謝致し、改めてお礼
申し上げます。本年
も変わらぬご協力を

よろしくお願い致します。

さて、保育を取り巻く状況がよ
りあわただしくなっています。

昨年の12月「保育所保育指針の
改定に関する議論のとりまとめ」
に關し承認を受け次のような概要
で公表されました。

1. 保育所保育指針の改訂の方向性
- (1) 乳児・1歳以上3歳未満児の保
育に關する記載の充実
- (2) 保育所保育における幼児教育の
積極的な位置づけ
- (3) 子どもの育ちをめぐる環境の変
化を踏まえた健康及び安全の記

新年の「あいさつ」

全国夜間保育園連盟副会長 酒井 義秀

踏襲)

- (2) 多様な園児への配慮（一人一人
の生活の流れを考えて創意工夫）
- (3) 2歳児から3歳児への移行の配
慮（3歳までの育ちを理解・受
容し、家庭との連携の基で、発
達の連続性に配慮）
4. その他の課題

- (1) 小規模保育、家庭的保育等への
対応
- (2) 周知に向けた取り組み
- (3) 保育の質の向上に向けて
社会保障審議会(保育専門委員会)
より以上のように示されています。

載の見直し

- (4) 保護者・家庭及び地域と連携し
た子育て支援の必要性
- (5) 職員の資質・専門性の向上

2. 改定の方向性を踏まえた構成
の見直し

- 第1章 総則、第2章 保育の
内容、第3章 健康及び安全、第
4章 子育て支援、
第5章 職員の資質向上
3. 幼保連携型認定こども園の保
育に關する事項
- (1) 保育の内容（保育指針との整合
性を確保、指針改定の方向性を

基づく確かな保育を継続し続けな
ければなりません。研修会にあた
り、開催要綱に記載されているよ
うにシンポジウムで現在の夜間保
育の課題を提示・整理していただ
き、分科会でそれらの課題を中心
に議論を重ね、10年後の夜間保育
を展望していきましょう。

来る平成29年2月11日、12日の
二日間、福岡県福岡市博多区「キャ
ナルシティ内グラント・ハイアッ
ト・ホテル」に於いて、第28回全
国夜間保育園経験交流研修会を開
催いたします。

「山笠があるけん博多ったい。」
と言われる天久会長の地元博多。
歓楽街で有名な中洲が会場のすぐ
近くにあります。昨年12月全国33
件のお祭りがユネスコ無形文化遺
産「山・鉾・屋台行事」に登録さ
れた博多祇園山笠行事でも有名な
お祭りがある町です。夏まつりな
ので今の時期、山笠を見る事は出
来ませんが、福岡県三大祭のひとつ
である「博多祇園山笠」に負け
ないように天久会長と私ども「男
集」そして「ごりよんさん」の心
意気でお迎えいたすべく、準備を
整えております。

みなさまとお会いできますこ
と、楽しみにしております。大い
に語り合い、交流を深め、素晴ら
しい夜間保育を未来に繋いでいき
ましょう。

シンポジウムのテーマは『10年後の夜間保育を展望する』

《シンポジウムのご案内》

「夜間保育は子どもの発達に悪い影響を与えるのか？」

1981（昭和56）年の夜間保育制度創設以来、「夜間保育は、児童福祉の目的である『児童の健全育成』の観点から、望ましくないと、つぶやきにも似て囁かれてきたこの言葉は、以来35年の長きにわたり、夜間保育に携わる保育者の心を悩ませてきた。

2016（平成27）年にスタートした子ども・子育て支援制度の中での夜間保育の位置づけは、曖昧模糊としたまま、なんとなしの落ち着きをみせている。夜間保育に携わる若い保育者にとって、自分たちの保育の依拠するところが本研修会にしかない、というのはなほだ心細いことである。が、この研修会があることで、夜間保育従事者としてのアイデンティティーとプライドを維持しているといえるだろう。このシンポジウムで10年後、夜間に保育を必要と

している親子に、そして働く人たちの希望の光を見つけましょう。

●コーディネーター及び

シンポジストの紹介

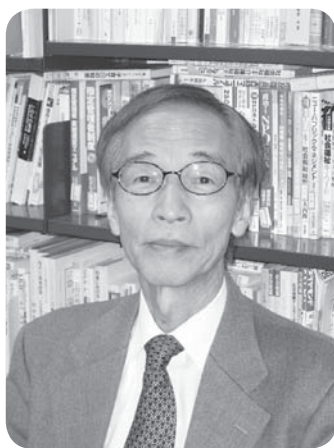
*コーディネーター・山縣文治氏
関西大学人間健康学部教授。

1954年広島県生まれ、大阪市立大学卒業後、同大学上を経て、2003年大阪大学生活科学研究科教授。主たる活動として、日本社会福祉学会理事、日本子ども社会学会理事他。全国夜間保育連盟には、設立以前から関わられ、連盟設立以来アドバイザーとして夜間保育に関する調査研究を実施、現在は当連盟顧問として関わっていただいている。



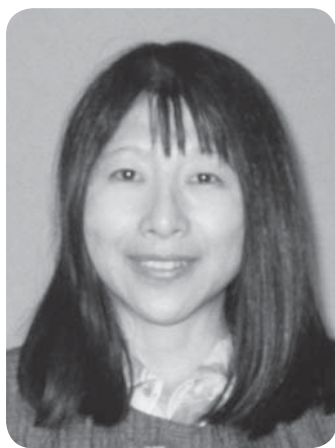
*シンポジスト・櫻井慶一氏
文政大学人間科学部 同大学院人間科学研究科教授。

早稲田大学大学院修了の後、日本社会事業学校社会福祉専修科修了・社会福祉士。1981年新潟県内の短期大学で保育士・幼稚園教諭養成に関わり、スウェーデンのムツレ野外保育を紹介・普及活動をしている。社会活動歴として、TBSのベビーホテル問題を含め、継続して夜間保育に携わる。2014年、夜間保育園連盟発刊の『夜間保育と子どもたち★30年のあゆみ』の編集を含め、監修に全面的に関わられた。現在、当連盟顧問。



*シンポジスト・安梅勅江氏
筑波大学大学院 教授

東京大学医学部保健学科卒業の後、国立身体障害者リハビリテーション研究所を経て、2001年浜松医科大学教授。1998年以来、当連盟と協力し、長時間の保育に携わる実践の経年調査を実施、『夜間保育の子どもへの影響及び課題に関する研究』を発表。『保育パワーアップ研究会』を主宰。夜間保育の質の向上を提唱されている。現在、当連盟顧問。



*シンポジスト・天久薫
全国夜間保育園連盟会長・社会福祉法人四季の会理事長。
連盟設立時から、夜間保育園園長



として関わられ、夜間に保育を必要としている親子に寄り添われている。九州大学法学部卒業と言う福祉分野と一味違うキャリアで、夜間と言う厳しい環境に置かれた親子を夜間保育所があることで少しでも望ましい状態に帰ることが出来るよう奮闘されている。



《分科会のご案内》

今回の経験交流研修会には、4つの分科会をおきました。

*第1分科会

【新制度と10年後の夜間保育】

理事長・園長・運営責任者の方々を対象に、ご自分の法人の運営について、教育保育福祉分野の在り方について語り合います。

発題は、当連盟会長天久薫氏（前述）で助言をシンポジウムのコー

ディネーターを務めていただいた、山縣文治先生（前述）にお願いしています。

*第2分科会

【明日の保育をよくしようという工夫している点について】

主に新任（4年未満）の職員を対象にした部会です。

発題テーマは、「1年間保育を実践してみても楽しいと思つたこと・難しいと思つた事」「明日の保育をよくするために心がけていること」を、参加者自身が日々の保育の中で感じた事やその時の対処法など、実践に即してその手立てをグループで話しあい討議します。

助言は、西南学院大学人間科学部教授・門田理世先生です。

★門田 理世（かどたりよ）先生
プロフィール・イリノイ大学で

M・S及びPh.D取得（いずれもアメリカの学位で修士・編集部主任）西南学院大学人間科学部講師・准教授を経て現職。

社会的活動として、文部科学省参与・福岡県・福岡市子ども子育て会議委員部会長他があります。

特に、就学前保育の分野での造詣が深く、実践に即したわかりやすいアドバイスは定評があります。



*第3分科会

【研究と保育実践をつなぐ】

主に経験職員・主任職員を対象にした部会です。

発題は特に定めず、当日参加者の話し合いの中で、グループのテーマを定め、討議の中で深めていきます。ここ数年継続して同じテーマで深めてきましたが、毎年新しい課題が見つかっています。

助言は、安梅勅江先生（前述）

*第4分科会

【調理員は、保育にどのように関わるか】

主に、調理師・栄養士・食育担当保育士を対象にした部会です。

発題テーマは、調理と保育とわかれがちな保育所の中で、子どもの育ちを見通し、連携を深めるための取り組みについて、レシピなども併せて発題していただきます。

グループに分かれ、調理と保育の望ましい関わりについて検証していきます。

助言は、北九州市管理栄養士の大村美智子先生です。

★大村美智子（おおむらみちこ）先生
プロフィール・山口県立大学家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻卒業。管理栄養士

その後、北九州市役所入職。民政局・保健所、市民病院、教育委員会を経て、平成28年、保健福祉局健康医療部 食育・栄養改善担当課長・子ども家庭局子ども家庭部 母子栄養指導担当課長兼務



事務局報告

年も明け、いよいよ今年度も残りわずかとなりました。連盟としては総会以降、下記の活動を行いました。

10月19日に東京八重洲ホールにて役員会を開催致しました。国への陳情と研修会について、検討いたしました。国への陳情については、各園の実情や要望等をふまえ、精査した内容の検討を行いました。また、研修会については、盛会だった東京大会の次が九州での開催ということで、日程や場所の検討を行い、更に内容について検討いたしました。

11月1日に厚生労働省へ陳情に行きました。陳情の内容に沿って夜間保育の実情を訴え要望してきました。国としても夜間保育の重要性を理解して頂いており、実態

の把握のための根拠の取りまとめなどの助言を頂きました。

11月7日に熊本へ行き、連盟会員園である熊本夜間保育園(熊本市)と八代ひかり夜間保育園(八代市)とへ、連盟会員の皆様からお預かりした熊本大分地震の義援金をお渡しに行ってきました。震災から半年経ち、震災の記憶が薄れがちですが、市内では未だに封鎖された道路があったりブルーシートに覆われた屋根が見られたりと、被害の爪痕が地震の甚大さを物語っていました。会員園の2か園は何とか自力で保育を再開されていましたが、園舎にはひびが入ったりした箇所が残っていたりとまだまだ大変な中ということで、皆様からの御志に感謝されておりました。

12月12日に福岡にて大会実行委

員会を開催致しました。全体の流れの確認と各種担当割りなどを行い、大会に向けて具体的な準備を行っていきます。今回は確保していた宿泊ホテルが満室となり、皆様にはご迷惑をおかけしましたが、多くの皆様を福岡の地でお迎えることができることを嬉しく存じます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

現在はまだに大会準備の真っ只中です。前事務局の先生方にご指導頂きながら、大会開催地園、研修部、広報部の皆様と一緒に、より良い大会とすべく奮闘しております。全国の仲間が集うこの大会を皆様にとって意義あるものにしてきるよう頑張っておりますので、宜しくお願い致します。

編集後記

新たな年を迎え、今年は「どんな年になるのかな」というより「どんな年にしたいか」を考えていきます。

これだけ多様化社会で働く人たちがいて待機児もまだまだ解消されない中、夜間保育所のニーズが減っているところもあるという事は何に問題があるのでしょうか。

少なくとも私たちは、夜遅くまで私たちの生活を支えて働く人たちの子育てを支援しています。また、子育てに不安を抱え夜間までの支援を必要としている人たちのセーフティネットとしての役割も大きいです。夜間保育所の受け皿で子育て不安から子どもを成長を希望に変え卒園していく人もいます。その人たちから今の日本社会は、子育てしにくい縮図の中で、「あの親」の問題ではなく、「この日本」の問題であることを教えられます。

全国津々浦々、地域ニーズは違っても夜間保育所が誕生してきた経緯は皆同じではないでしょうか。その確認の意味でも経験交流研修会で1つになれたらいいなあ。

草場 加奈子